2019年5月1日発行（奇数月1日発行）通巻第64号

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol. 64

2019 皐月・水無月

特集

2019年度方針

――「広報の充実」と「道院の充実」

特集

2019年度方針
――「広報の充実」と「道院の充実」

「金剛禅の充実」を目的に、2011年施行の組織機構改革から9年目を迎えました。この間、道院の充実に向けてその活動形態の整備を始め、道院長の僧階昇任への取り組み、道院の下支えとなる教区活動の充実を図ってきた結果、徐々にその成果が表れ始めてきました。2019年度は内外のさらなる充実を図るべく、「広報の充実」と「道院の充実」という大方針の下に事業を展開してゆきます。

金剛禅総本山少林寺

1. 〝発信力〟の向上

本山内局では昨年、門信徒増加に向けた研究に取り組み、その成果として、SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）の普及など、情報社会に応じた効果の高い広報のあり方を、資料『現代社会にふさわしい広報を考える』にまとめました。

本年度は、希望者を対象に、道院長研修会終了後にオプション研修（所要時間は3時間）を実施し、以（もっ）て道院長の〝発信力〟の向上に役立てていただきます。

“発信力”を高めませんか？

2. 七つの施策の推進

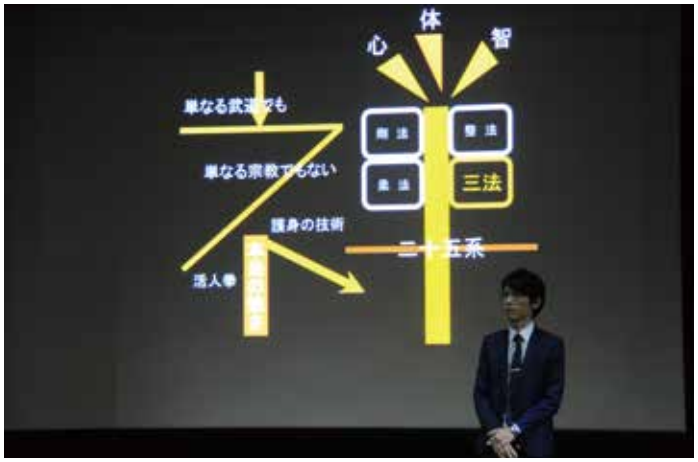
「未来志向で新しい教団の姿を創造し企画する」という視点で打ち出した七つの施策の実施に向けて制度設計を完成させ、モデル運用・実運用へ向けて推進します。

施策の一つである布教助成制度は、予算面から基礎体力の充実を支え、ノウハウの構築につなげることを主な目的としている制度ですので、ぜひご活用ください。

また、集合道院制度は、専有道場の活用を目的に、複数の道院長で一つの道院を運営するというものですが、2018年度は7人が参与道院長として活動を始めました。

（補足）布教助成制度の活用事例が『あ・うん』vol.63「わたしの工夫」において紹介されていますので、ぜひご一読ください。

同制度のガイドラインは基幹システムのお知らせ画面（3月28日付）で確認できます。また、集合道院制度は、同画面（2018年6月7日付）で確認できます。



布教助成制度を活用して、ホールを借りてイベントを開催し、拳士が一般の人にプレゼンテーションを行った（東京表参道道院）

3. 次世代ネットワークプロジェクト

2019年度に新設されたプロジェクトで、正式名は「次世代の育成制度やネットワークを検討・推進するプロジェクト」です。

持続性ある教団づくり、道院承継、次期道院長の輩出に向けて、30代後半から50代前半までの9人体制で本山事務局とタイアップして進めていきます（構成員は9ページに記載）。

主な事業は、「広報戦術（本山提唱）の実践とフィードバック」「次世代指導者が連携・結束しやすい環境づくり」「次世代ネットワーク交流会（9月7～8日）の企画・運営」などです。

次世代ネットワーク交流会では、「少林寺拳法や金剛禅を心の底から楽しもう！」をコンセプトに、少林寺拳法はもちろん、異文化交流も行う予定です。

交流会を通じて、世代や地域を超えて、一人一人がつながり、〝思い〟や〝特技〟や〝悩み〟などをありのままに交換し合える関係づくりを目指します。道院長はもちろん、若手拳士も奮ってご参加ください。

人と人をつなぐネットワークづくりを

4. 生涯修行プロジェクト

同じく、2019年度に新設するプロジェクトで、正式には「生涯修行としての少林寺拳法修行法検討プロジェクト」です。

高年世代が入門し、無理なく修行を楽しめるシステム――修練法や指導法のガイドラインの作成をはじめ、一般社団法人SHORINJI KEMPO UNITYや一般財団法人少林寺拳法連盟とも連携し、昇格考試のあり方や大会のあり方などについても提案していきます（構成員は9ページに記載）。

「生涯修行としての少林寺拳法」をいつまでも楽しんでいただくために……

5. 僧階昇任の推進

金剛禅布教者として自身の僧階を高めるべく研鑽（けんさん）を積むことは、大変重要なことです。組織機構改革後、中導師から大導師補任を受けた道院長、あるいは大導師から少法師補任を受けた道院長は、増加傾向にあります。

一方で、なかなか僧階昇任に向けた取り組みが進まない道院長もいるようです。

そのような方にお勧めするのが「僧階補任講習」です。この講習会は、上位僧階補任時に受講いただくものですが、補任の有無にかかわらず、〝聴講〟することが可能です。

現在、中導師の方であれば中導師補任講習を、また、大導師の方であれば大導師補任講習を聴講することができます。受講者からは毎回高い評価を頂いている講習会ですので、ぜひ、ご受講ください。

（補足）聴講された方には、特典として、僧階履修科目の一部代替を適用することが可能です。ただし、科目の履修状況によっては適用されない場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

僧階補任講習では、金剛禅の布教者としての認識、儀式における所作などを一つ一つ確認します

6. ハラスメント根絶

一人一人と向き合うことを大切にしたい

昨今、スポーツ指導現場における暴言や暴行・体罰、あるいは性的嫌がらせなど、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントに関するニュースがメディアを騒がせていますが、これらは私たちにとって、決して無関係なことではありません。

日々の道院活動におけるハラスメント根絶に向けて最善の注意を払えるよう、道院長研修会においては、専門家による「ハラスメント基礎研修」を実施します。

7. 本山参禅体験による布教事業

本山の施設を利用して、一般の方が金剛禅の文化に触れる機会を創出し、参加者の心と体に安らぎを提供するために、積極的に参禅体験や館内見学の受け入れを行います。

内容は、坐禅（ざぜん）会、動禅（少林寺拳法技法体験もしくは少林寺拳法健康プログラム体験）、法話、講演会（不定期）などです。

金剛禅の文化に触れていただく機会を創出

終わりに

いよいよ新しい年度が始まりました。

それぞれの道院（道院長）の個性、長所、魅力を存分に発揮して、拳士一人一人の笑顔があふれる道院をつくってまいりましょう。

◆金剛禅総本山少林寺
役員人事異動のお知らせ

●退任
（2019年3月31日付）
・責任役員
宗　昂馬
中川英昭
・総代
田中勝義
宮本　繁（定年）
久保田利幸（定年）
これまでのご功労に感謝申し上げます。

●就任
（2019年4月1日付）
・総代
原　宏
玉村　好
有村利雄

開祖語録ダイジェスト

1967年8月
第1次指導者講習会

信仰の確立……自己を信じる

自惚れはいけない。けれど、自己の尊厳というものを本当に確認しないかぎり、指導者にはなれないのです。フラフラしておって、「さあ、どうしよう」「誰かの意見を聞いてから返事しよう」なんて、もうげっそりする。

自信がないというのは、信ずることがなくなった、自分で自分を信じなくなった、つまり自分を信じていないということであり、行き詰まるというのは、自信を喪失したときに始まる。諸君より私ははるかに複雑怪奇な人生を歩み、勉強もし、そうしてこうした心境を話しているが、20代で覚れた人もたくさんいるわけで、諸君だってできないはずはない。で、その覚りとは何かといえば「自覚」です。自覚と自信、私は同じだと思う。自ら覚った。それだけです。自分なんです、やはり。人が覚らせてくれるのではなく、自分で見つけなければだめなんです。

泣き事を並べている連中、自信を喪失したやつだ。いちばん大事なことは「自己確立」。文字で書けば、たったの四文字です。でも、それを君たちが分かるにはかなりの努力がいる。自信喪失症にかかっている者、いないか？「俺はだめだ」「俺は先生についていけない」ではない。ついて行く気がない、それだけです。「俺はつまらない人間だから、俺みたいな者が天下国家を言ったって、どうしようもない」「そんなことは、政治家に任せたらいい」と。けれど、戦争を始めているのは政治家じゃないのか？　汚職をしたり、ろくでもないことをしているのは、政治家や役人と違うか？「自分の国をよくする。世界の平和を維持する」、これは、あらゆる民族の最高目標です。誰かがやらなければならない。「誰かがしてくれるであろう」ではだめなんです。

で、まず君らがやらなければならないことは、「信仰の確立」です。つまり、自己を信じる、人間の存在の意義を本当に確認することから始まる。われわれは、偶像を拝むことを信仰とはいっていません。宇宙の実在を信じ、その中に生かされている自己を信じることです。そして、自分がしていること、どうしてもしなければならないことを、自らの使命として認識することです。

絵本で広げよう金剛禅プロジェクト

富良野光明寺道院
道院長　青木賢隆

難しいことは考えず、ただただ楽しむ

わが道院では、儀式行事と、定期的に行っている学科集中講義で読み聞かせを行っています。「道院長～、きょうも絵本あるんですか？」と楽しみにしてくれているようです。初めのころは、絵本選びもいろいろと考えすぎていましたが、“読み聞かせをすることありき”になっていることにふと気付き、「それは違うな……」と。

「まずは私自身が楽しまなければ、拳士には伝わらない」と思い、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら選ぶようにしています。物語などなく、ただただ無意味（？）な言葉がひたすら続く絵本などでは、子どもたちは身振り手振りで大笑い。すると、「この子はこんな表情を持っているんだ」と発見があったりします。いつも顔を合わせ、分かっているつもりになっているけど、まだまだ分かっていないんですね。易筋行でも、こんな表情を引き出せるようにしたいと思いました。小１の拳士が、楽しさ余って立候補して読み聞かせを行ってくれたことが、最近のうれしかった出来事でした。

今回読んだ絵本

◎ぐやん よやん

作：長谷川摂子
絵：ながさわまさこ
出版社：福音館書店

「この絵本は、読むというより、リズムと抑揚を自在につけて、思い切って声を出し、歌って楽しんでほしいのです」と作者の言うとおり、「ぐやん よやん」「ほんやー ぞぞぞぞ びーん」「じんじ じんじ ずー」など、絵の中の不思議なものの動きに合わせて、声をひそめたり、大きくしたり、リズムを付けたり、自由自在に読むことによって、子どもは大喜びで絵とことばに反応することができ、読み手の大人も一緒に楽しみながら読み聞かせができます。

法を問い
学を修める
vol.62
文／春日部裕樹

変わることを楽しむ修行

高校1年生のときに友人から「これから流行らしいから一緒にやらないか」と誘われ、四日市道院に入門。入門したきっかけはこのように安易なものであった。

20代後半になると、本山での講習会をきっかけにして修練が楽しくなってきた。四日市道院では道院長より、つど、金剛禅の目指すべき方向へと軌道修正していただいた。例えば、昇級試験レポートから、自分の考えはどうなのか、そしてどう行動するかが大事であるなど。そんな中、三段のとき、金剛禅の教えを学びながら、それが身についていない自分に気がつく。靴をそろえること一つとっても忙しいときや慌てているときはできていない。周りの拳士を見ても同様である。こんなことすら当たり前にできていない現実を考えると、易筋行によって本当に自分は目指すべき方向へ変わることができるものなのかという疑問が膨らみ、自問自答する日々が続き、参座を続けることができず休眠してしまった。

休眠後も本を読んだり映像を見たりして自問自答を続け、半年を過ぎたころ、「……できていないからこそ、言い続ける（やり続ける）」という言葉を聞いたとき、今の自分に必要なものはこれだと思った。

少林寺拳法から離れていては答えに近づけない、続けなければと思い直し、四日市道院の道院長に相談したところ、環境を変えてみるという考えに至り、四日市僧伽道院へ転籍を後押しされた。四日市僧伽道院の先代道院長は、考える視点が自分とは大きく違う。自分の想定を超えた言動に感心しながらも、ついていくのが精いっぱいだった。

10年がたち、先代道院長から「道院を任せたいがどうだ」と声をかけられた。仕事と私生活の調整と気持ちの整理に一年以上かかったが、お引き受けいたしますと返事。先代道院長から後日、「無理を言えば引き継ぐだろうが、それは本意ではなく、道院長になるという自覚ができ、自分から道院を引き継ぐと申し出るまでじっと待った」という話を聞き、師とは人が育つときを待ち、それに時間をかけることのできる人であると教えられた。

私の道院長一年目は、先代と同じように指導していたつもりだが、しょせんは真似にしかすぎず、子どもたちは見抜いている。大人の拳士も自らが行動しようとはしない。技術指導ができても、それ以上の何かが欠けていて道院長らしくない、道院長として信頼されていないと感じた。

生来無口で人の前に立つことを好まない私は、道院幹部となり、指導を通じて徐々に変わってきたと思っていたが、それだけでは足りない。道院は寄り場だ。道院長は日々の修練に来たくなる場の雰囲気をつくり、拳士や保護者との間に人間的信頼関係をつくることが重要だ。

自分が変わることで、門下生と道院長がお互いよい方向に変わっていく。自分は少林寺拳法の指導者としていつも見られていると意識し、門下生には一人一人の特性を見極め、「任せる」ことを心がけた。徐々に門下生が自信を持って行動する姿に変わっていく。金剛禅における生涯修行とはそういうことだったのかという思いに至った。道院長にならなければ、そのような世界は気づかないし、自分がどう変わる必要があるかという修行課題も見えてこなかった。他人のことを考え、教え、導く力をつけるには、道院長を目指し、道院長になることが一番の近道といえる。

よき二人の師に出会えたことに感謝し、生涯修行はこれからも続く。

わたしの工夫

第11回

道院運営へのヒント・・・もって道院の活性化、拳士の育成につなげていこうというコラムです。

今回の工夫を教えてくれたのは・・・

京都府・舞鶴（まいづる）道院
清野（きよの）　姿（すがた）道院長

工夫① 人間性を高めてもらう気持ちで拳士に向き合う

大人も子どもも「ただいまー！」と、まるでおうちに帰ってきたかのような道院でありたいと思っています。

かつては厳しい指導もしていましたが、今は違います。「よう帰ってきたなあ」と、参座してきた拳士をおうちに迎え入れるようにしています。

今の専有道場は40畳ほどで、５年前にご縁を頂きました。広さや天井の高さもほどよく、家庭的な道院をつくるのにふさわしい環境になったと思っています。

少林寺拳法というものを通じて、拳士たちに人間としての素直さや強さ、他者を思いやる気持ちなどを身につけてもらいたい。そんな気持ちで拳士と向かい合っています。

おかげさまで、少年部のころに入門した拳士が、今では社会人となり、子どもたちを指導してくれるようになりました。このようなものが財産なのだと思います。

工夫② みんなと一緒になって汗を流す

道院長は、金剛禅の“布教者”であるとともに、拳士を育てる“指導者”でもありますが、もう一つ忘れてはいけないことがあります。それは、道院長も一人の“修行者”である、ということです。

修練では、開祖の教えのとおり、できるだけ一度は一人一人の手を取って指導するように心がけています。

一方で、私もみんなの中に交じって、一緒になって修練に汗を流します。一緒に汗を流すからこそ、拳士から学べることもたくさんあり、それは私自身の成長の糧にもなっています。

これからも一人の修行者として、謙虚な姿勢で、道を求めていきたいと思います。

担当／倉本亘康

道院長　vol.46

元気の素

愛知県・岡崎中部道院
道院長　加藤利彦（39歳）

幼少より身近な存在

私の父は、道院長として、二つの道院を運営していたため、生まれたころから少林寺拳法は非常に身近な存在でした。そして、私が28歳のとき、父が運営している道院の一つを引き継ぐことになりました。当時、道院内には、高段者の先輩拳士も多数在籍されていたので、「私に道院長が務まるのだろうか」と悩みましたが、子どものころからどんなに忙しくても道院に行く父の姿を見ていたことと、父からよく聞いた「継続は力なり」という法話を思い出し、〝やるなら今しかない〟と奮起し、道院長を交代する決意をしました。

私は、地元の高校を卒業したあとに日本少林寺武道専門学校（当時）に入学し、そこで多くの先生方から学んだことや、共に学んだ仲間が全国各地で活躍していること。また、地元の武専愛知地区でお手伝いをさせていただいていたため、道院長のやりがいも肌で感じていたことも道院長になる後押しになりました。

まずはあいさつがしっかりできるように

道院では、あいさつがしっかりできるように指導しています。あいさつは、人と人によって交わされる行為であり、人間関係の基本となるものですので、独り言のようにつぶやいたり、下を向いてあいさつしている子がいれば、何度もやり直しをさせることもあります。このように、当たり前のことではあるのですが、あいさつがしっかりできることをまず教えています。

また、人へのあいさつだけでなく、道場に対してのあいさつもしっかりできるように教えています。これは、私が道院長を交代して4回修練場所を変更していることにも関係しています。修練場所を変更せざるをえなくなったたびに、幹部拳士をはじめ保護者の方々がいろいろ探し回ってくださいました。そのご助力を拳士に知ってもらうとともに、感謝の気持ちを忘れてほしくないこともあり、道場に対するあいさつも徹底するように指導しています。

道院での指導については、元気いっぱい修練することが大切だと考えています。私自身、道院長になってからも、拳士たちと一緒に基本から目いっぱい修練し、汗をかくように努めています。道院長は、指導する立場ではありますが、まずは修行者であるということを忘れないためにも、日頃の修練に積極的に取り組み、各種大会にも参加しています。また、教区や県連、武専での修練や指導など、できる範囲で協力しています。

自然と協力者が現れる

仕事は自営業（建築関係）ですので、修練日は時間をつくれるよう、仕事を他の日に振るなど工夫をしています。取り引き関係の方などには道院長をやっていることを伝え、できるかぎり理解していただくよう努めています。

道院長を始めたころは、仕事の調整もなかなか難しかったのですが、「とにかく一生懸命やりきるしかない！」と思い続け、実行しているうちに、だんだんと周りも理解してくれるようになってきました。しかし、どうしても修練に遅れてしまうときは、父や幹部拳士の方にお願いして道場に行ってもらうこともありますが、自分の時間の使い方の工夫によって、ほとんどのことはできるようになるものだと実感しています。また、道院長でしか得ることができないことも多いと、最近は感じています。

前述しましたが、一生懸命やっていると、自然と周りの人が協力してくれたり助けてくれたりするものです。妻や子どもたちも、道院長という立場を理解し、修練日は何かと協力してくれています。家族だけでなく、本当に困っているときに協力してもらえることのありがたさをしみじみ感じることが多くなりました。この経験を通して、「私自身も誰かのために協力しよう」と考え、実践することが年々増えるようになってきました。

今後も、自身が修行者であるということを忘れず、拳士とともに成長できるように精進し、父から学んだ〝継続は力なり〟の教えを実践していきたいと考えています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

担当／中川　純

本山 開催報告

●本山公認教区講習会（派遣講師）

[1月27日]千葉県教区（片岡三郎）
[2月3日]茨城県教区（鈴木裕）
[2月17日]栃木県教区（柏井伸一）、奈良県教区（川端哲）、山口県教区（高辻吉治）、鹿児島県教区（大澤隆）
[2月24日]中国地方教区（坂下充）、京都府教区（濵﨑哲也、川上鐘成）

●教区研修会

[1月19日]青森県教区
[1月20日]大阪府教区
[1月26日]佐賀県教区
[1月27日]埼玉県教区
[2月2日]東京都教区
[2月3日]和歌山県教区、愛知県教区、長崎県教区
[2月17日]長野県教区、滋賀県教区、香川県教区

●小教区研修会

[11月23日]宮城塩釜小教区
[12月23日]三重四日市小教区
[1月8日]奈良桜井小教区
[1月14日]東京第二小教区、東京第三小教区
[1月20日]群馬東毛小教区、神奈川横浜第三小教区、兵庫丹有小教区
[1月21日]東京第六小教区
[1月26日]愛知西三河第一小教区
[1月27日]東京第十六小教区
[2月2日]長野東信小教区
[2月3日]東京第八小教区、神奈川川崎小教区、山梨小教区
[2月6日]山形庄内小教区
[2月10日]静岡中部小教区
[2月11日]奈良桜井小教区
[2月17日]北海道石狩小教区、青森南部小教区、茨城県南小教区、神奈川西湘小教区
[2月24日]北海道胆振苫小牧小教区、北海道十勝小教区、三重四日市小教区

北海道教区 新春法会を挙行

2019（平成31）年1月19日、北海道教区新春法会を白戸淳一教区長が導師を務め、厳粛に挙行されました。参列者一同、少林寺拳法創始72周年に向け、より一層信念を持って布教に邁進することを誓い合いました。

心新たに2019年の一歩を踏み出す有意義な集いでした。

（北海道教区）

三木道院 勤続40年記念祝賀会

2月10日、高松正純先生の勤続40年を記念し、祝賀会を開催しました。近隣の所属長や懐かしいOBも駆けつけ、今までの軌跡を振り返り、感動する内容でした。また、奥様の登代子様にもご臨席いただき、幼少からお世話になった者も多く、感謝することができました。

（播磨南道院／吉野雅文（発起人））

本山委員名簿
（2019年度）

◆教学委員会
須田 剛（委員長）、東山 忠裕（副委員長）、春日部 裕樹、坂下 充、中山 文夫、濵﨑 哲也、藤井 省吾、松本 好史

◆次世代の育成制度やネットワークを検討・推進するプロジェクト委員
浅井 昌典、池内 一文、海沼 実、永江 健将、中島 正樹、藤本 哲章、増井 友哉、三井 純一、村田 素彦

◆生涯修行としての少林寺拳法修行法検討プロジェクト委員
石井 利直、伊東 一男、片岡 三郎、河面 豊光、鈴鹿 成正、森川 弘仁、米田 正寛

◆運営指導委員
秋葉 みどり、川上 鐘成、片岡 三郎、川端 哲、河面 豊光

◆本山教師
青島 勉、井戸家 正旺、宇都宮 俊二、江原 謙治、沖山 聖徳、海鋒 雅之、柏井 伸一、春日部 裕樹、片岡 三郎、川上 鐘成、川端 哲、小林 登、近藤 悦朗、齊藤 政実、坂下 充、鈴鹿 成正、鈴木 義勝、鈴木 裕、須田 剛、高辻 吉治、竹田 則幸、土佐 久、永井 比佐志、中川 英昭、中山 文夫、野口 雅司、濵﨑 哲也、原 宏、東山 忠裕、藤井 省吾、前田 保男、松本 好史、三柴 始、迎田 展孝、柳川瀬 一美、湯浅 裕二

◆僧階論文審査員
飯野 貴嗣、海鋒 雅之、春日部 裕樹、片岡 三郎、川端 哲、倉本 亘康、坂下 充、鈴木 義勝、須田 剛、高辻 吉治、竹田 則幸、多月 文博、中川 純、中川 英昭、濵﨑 哲也、原 宏、東山 忠裕、藤井 省吾、松本 好史、三柴 始、宮本 公己

●●●▶ 帰山行事の案内 ◀●●●

門信徒の方々が心の故郷である本山において、金剛禅のすばらしさを実感し、さらに修行に励めるよう“帰山日”を設けております。

周年行事や複数道院での行事の一つとしてみてはいかがでしょうか。

保護者や後援者の方々もお越しいただきますよう、お待ちしております。

※開催日：4月21日、5月26日、7月28日、8月4日、10月27日、2020年1月26日、2月16日、3月15日
※帰山のプログラム：鎮魂行、管長挨拶、修練、演武見学、記念撮影

◇◇◇◇◇

※詳細は、基幹システム／お知らせの「■金剛禅総本山少林寺／2019年度 帰山行事のご案内【道院長各位】」（2019年3月15日掲載）をご覧ください。

投稿大募集　〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp　※投稿記事は400字を目安とし、名前、所属、連絡先を忘れずにご記入ください。なお、誌面の都合上、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。ホームページには誌面以外の投稿も掲載しています。

2019年2月度　認証

●交代 …… 福岡宗像道院　中島 秀幸

僧階昇任者

大導師

2019年3月10日付

海沼 実（東京西品川道院）
戸田 耕二（岐阜金華道院）
桒原 誠司（名古屋港道院）
伊藤 作次（名古屋瀬古道院）
佐脇 幸良（三重津城北道院）
矢野 馨（大津比良道院）
冨山 稔（伊予宮下道院）

2019年3月31日付

遠藤 康二（宮城大河原道院）
尾崎 諭司（茨城牛久道院）
清水谷 正道（千葉宮野木道院）
小倉 潔（千葉弁天道院）
竹中 司（東京滝野川道院）
飯田 昌一（秦野道院）
深澤 宏（海老名道院）
庄司 不二雄（横須賀馬堀道院）
吉田 尚生（川崎小杉道院）
山田 恵修（清水中部道院）
宇佐美 智（静岡竜爪道院）

中導師

2019年1月1日付

小林 美一（大阪新淀川道院）

2019年3月10日付

佐藤 晋（秋田仁賀保道院）
島 英夫（横浜戸塚道院）
日野 勝利（横浜戸塚道院）
前出 健太郎（三重津城北道院）
田中 徳幸（大阪東淀川道院）
松村 洋輝（宇部常盤道院）

2019年3月30日付

伊藤 慎也（酒田中部道院）
吉田 和雄（山形天童道院）
吉田 宏子（山形天童道院）
豊田 健（東京築地道院）
木内 格志（三軒茶屋道院）
小久保 貴光（町田南道院）
津川 辰己（湘南誠志道院）
吉田 雅恵（横浜戸塚道院）
阿部 徹彦（厚木道院）
小山 実（横浜本郷道院）
内藤 正智（川崎柿生道院）
吉田 愛美（東戸塚道院）
浦辺 洋介（横浜星川道院）
鈴木 伸定（横浜名瀬道院）
鈴木 大忠（浜北道院）
中村 孝之（静岡三島道院）
杉下 久夫（伊豆韮山道院）

法階昇格者

正範士

2019年3月17日

本田 穣司（川之江道院）

准範士

2019年3月17日

岸本 章良（篠山中部道院）
三浦 勇（三田東道院）
小玉 恵三（倉敷北道院）
國富 佑治（本部道院）

お布施

布施

▷第七期 宗道臣塾 塾生一同	50,000円
▷埼玉早瀬道院　林 昌幸	50,000円
▷東京都教区	10,000円
▷豊田末野原道院　服部 俊美	10,000円
▷周南南道院　渡邊 晴夫	10,000円
▷千葉県教区	5,000円

公認講習会

▷栃木県教区	30,000円
▷千葉県教区	30,000円
▷茨城県教区	30,000円
▷京都府教区	30,000円
▷中国地方教区	30,000円
▷熊本県教区	30,000円
▷鹿児島県教区	30,000円

新春法会

北海道教区、群馬県教区、東京都教区、三重県教区、岐阜県教区、徳島県教区、牧野 清、牧野 明美、藤本 義政、小池 孝忠、小野寺 米蔵、庄野 雅巳、山本 潮、本田 演昭、加藤 義秋、石井 宏明、今城 隆廣、峠 徹、小川 肇、大野木 憲三、篠原 正、田原 正晴、川口 宗勇、今井 明雄、三重千種道院、三重津東道院、梅津道院、京都向日町道院、大阪伊吹道院、本部道院、林 正次郎、中村 敏之、鈴木 源治、青島 勉、伊澤 啓介、前野 美則、米澤 和雄、五十嵐 好一、清野 姿、永井 比佐志、柏井 伸一、高野 實、木村 弘史、石井 武俊、丸野 俊一、池本 孝一、東浦 寿成、木戸 薫、内海 武彦、内海 昌浩、川崎 敏行、岡田 孝、畑中 武弘、中村 袈裟巳、小磯 信一、江原 謙治、淺妻 嘉光、橋本 佳子、女性拳士交流会イン京都、本部道院OB会、株式会社高松三越、株式会社一鶴、西野金陵株式会社、株式会社百十四銀行多度津支店、トリックスターズ・アレア有限会社、山﨑生花店、民宿ちぐさ、有限会社長尾酒店、お食事処まんぷく食堂、買田果物店、山﨑 高雄、西山 俊一郎、近藤 典子

訃報

根本 良一（ねもと よしかず）　朝霞道院元道院長、187期生、大導師正範士七段、2019年1月31日逝去、満86歳

菅 敏光（すが としみつ）　御船道院元道院長、94期生、大導師正範士七段、2019年2月8日逝去、満86歳

古林 晋（こばやし すすむ）　神戸北道院道院長、184期生、大導師正範士八段、2019年2月27日逝去、満72歳

●少林寺拳法グループ関係団体代表者の役職呼称変更について

2019年４月１日より、少林寺拳法グループ代表者の呼称を「総裁」改め「代表」、金剛禅総本山少林寺代表役員の呼称を「代表」改め「管長」とします。

編集後記▶「特集」にあるように、新たな取り組みとして「次世代ネットワークプロジェクト」「生涯修行プロジェクト」がスタートしました。情報社会、少子高齢社会といわれる中、遅ればせながら、これからの金剛禅運動がその活動の幅をより広げるために必要なプロジェクトです。▶これまでとは違う社会を迎え、同じ発想、同じやり方のままでは、活動の幅は恐らく狭まるばかりです。すでにある「健康プログラム」や「絵本プロジェクト」のように、道院だからこそできる、道院にしかできない、そんな活動がますます価値を持っていくことでしょう。▶新天皇陛下が即位され、元号が令和となりました。そんな節目の変わりも味方につけて、果敢に時代にチャレンジしていきたいものです。（さ）

表　紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/

管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅　検索

●お詫びと訂正

「あ・うん」第63号（2019年3月1日発行）9ページに誤りがありました。

誤）竹下市長 → 正）竹上市長

関係者の皆様ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

あ・うん　金剛禅総本山少林寺広報誌　vol.64　2019皐月・水無月

2019年５月１日発行（奇数月１日発行）
発行人：大澤　隆
発行所：金剛禅総本山少林寺
〒764-8511
香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48
☎0877-33-1010
http://www.shorinjikempo.or.jp
編集人：坂下　充
印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌『あ・うん』追加発送について

現在、広報誌『あ・うん』は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は１部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出ください（追加１部につき50円・送料別途要）。

TEL.0877-33-1010
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑（いちごいちえ）

イラスト／大原由軌子

追手門学院大学（おうてもんがくいんだいがく）　大城浩司（おおしろこうじ）

僕たちは恵まれている

ことしも春季大学連盟本部合宿に参加しました。ことしは少林寺拳法記念館（五畳半道場）を見学できると案内があったので、最終日解散の後、同じ大学の仲間と時間が許すかぎり見学しました。〝狭い道場〟と漠然と予想していたのですが、本当に普通の民家の一室であったことには少し驚きました。六畳間に半畳の祭壇（といっても押し入れの上部）があり、道場といえる部分は本当に五畳半でした。職員の方から「当時は廊下（ほんの2～3m）で待っていて、開祖の「次」という言葉で道場に入り、一人ずつ指導を受けていたそうです。その後は他の門下生と外で修練を積んでいて、時には一緒に食事し、夜遅くまで語り合っていたそうです」と説明を受け、創生期の少林寺拳法の苦労と工夫、そして開祖と大先輩たちの熱い思いを想像することができました。また〝僕たちは恵まれている〟とも感じました。道院で少林寺拳法をしていたときも、現在大学で少林寺拳法をしているときも、広い道場で修練できることが当然のように思っていましたが、実はすごくありがたいことだと感じました。

私は小学校1年生のとき道院に入門し、その後も高校、大学と少林寺拳法を続けていますが、大学を卒業すると就職し、新社会人として今までのように修練を続けることが困難になることもあるかもしれません。しかし、可能なかぎり修行に取り組み、人づくりの道に携わっていきたいと思いました。

投稿大募集　道場や拳士のちょっといい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022　e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

宗門の行としての少林寺拳法

強さ

本当の強さを得るには、拠(よ)り所となる自分をつくることである。それは、相手を倒す強さを身につけることや、他人との比較や競争によって得られるものではない。
無手で身を護(まも)る技術を修めながら胆力を養い、どのような状況に陥ろうと自分の可能性を信じ、途中で諦めることなく事に当たっていく。
これらの努力を積み重ねる先に本当の強さがあり、自分を信じているからこそ、人は身心ともに逞(たくま)しく成長していけるのである。

中段返より内受突

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで
動画をご覧いただけます。

金剛禅　検索

撮影／志村　力　文／冨田雅志　演武者／守者：倉本亘康　准範士六段　攻者：飯野貴嗣　准範士七段

SHORINJIKEMPO
少林寺拳法